

教育研究上の目的

文芸文化学科は、人間教育の基盤となることばの力を磨き、文化・芸術を深く洞察して、人として知的に成熟することを目指す人間を養成するとともに、急激に変動する未来社会において、ゆるぎない自己を確立し、相手を慮る力を発揮して、グローバル社会の中で、多様な文化背景を持つ人々と共に生き抜くことのできる心豊かな人間を養成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている
2. 身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら学び、さらに調べて考察し、確かな言葉で表現し発信することができる
3. 人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、多様な文化環境を有する社会のさまざまな分野に貢献できる

そのうえで、次の資質および能力を有している者に「学士（文学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている
2. 日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている
3. 現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている

②思考力・判断力・表現力

1. 自己と自文化について考え、客観的に分析することができる
2. 他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる
3. 多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる
4. 芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる

③主体性・多様性・協働性

1. 研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる
2. 自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる
3. 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めると共に、多彩な表現活動の意味を認識し、分科・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、およびその価値を感得するカリキュラムを設定している。

1年次は、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要な基礎的な学習能力を身につける。

2年次は、思考力、分析力、語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型「文芸・文化ゼミ」を中心に、1年次で修得した知識・技能を、様々な文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、さらに発展、拡充する。また、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで興味・関心のあり方を見定め、「専門基幹科目」の履修によ

り3年次のコース選択に備える。

3年次は、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制のゼミにより専門分野への考究を深め、4年次は、学びの集大成として卒業論文、卒業制作に取り組む。

各領域の学修過程は、次の通りとする。

◆専門科目 基礎科目 基幹科目

1. 文化関連の基礎知識を身につけ読書に取り組みさせる
2. 文化関連の基礎知識を自ら収集させる
3. 文化関連の基礎知識を活用して考察を深めさせる

◆「日本語・日本文学」区分

1. 日本語・日本文学関連の基礎知識を主体的に身につけさせる
2. 日本語・日本文学関連の専門知識を主体的に身につけさせる
3. 多様な知識を関連づけて理解させる

◆「多文化理解・共生」区分

1. 多様な文化に関する専門知識を身につけ読書に取り組みさせる
2. 多様な文化に関する専門知識を自ら収集させる
3. 多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深めさせる

◆「芸術・文化」区分

1. 芸術・文化関連の基礎知識を主体的に身につけさせる
2. 芸術・文化関連の専門知識を主体的に身につけさせる
3. 多様な知識を関連づけて理解させる

◆「ゼミナール」区分

1. 人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持たせる
2. 人文科学の基本的な研究方法を学ばせる
3. 自らの課題を設定し探究させる

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

文芸文化学科では、学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の精神に基づき、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような点を評価して入学者を受け入れる。

1. 言葉を有する人間が生み出した文化・芸術に知的な好奇心を抱き、それを追究するための深い洞察力を得たい人
2. 多様な文化的背景をもつ人々との協働を視野に、論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を身につけたい人
3. 生涯を通して持続可能な教養を身につけ、新たな文化・芸術を創造する意欲のある人

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 文化・芸術を追究し幅広い教養を修得するために必要となる高等学校の教科・科目に関する基礎的な知識・技能を身につけている
2. 文芸文化学科での専門的な学修に加え、中学・高等学校教員免許状（国語）に関する学修を行うために必要となる基礎的学力を身につけている
3. 高等学校の国語科において達成すべき日本語力を用いて、会話表現や文章表現をするための基礎的知識を身につけている

②思考力・判断力・表現力

1. 幅広い領域に興味・関心を持ち、自ら課題を設定することができる
2. 必要な情報を整理し、論理的にまとめることができる
3. 固定観念にとらわれることなく、他者の意見を踏まえながら、自らの意見を表現することができる

③主体性・多様性・協働性

1. 文化・芸術について自ら考え学ぼうという意欲がある
2. 多様な文化的背景を持つ他者を尊重し、異なる考えを受け入れつつ、自らの意見を表現することができる
3. 明確な正解がない課題に取り組む際に他者との意見調整ができる